

渡邊英彦氏死去を受けて「愛Bリーグ」の新たな決意

B-1 グランプリ主宰団体「ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛Bリーグ）」名誉会長の渡邊英彦氏が2018年12月19日に死去されました。

渡邊氏は2000年に「富士宮やきそば学会」を結成以来、市民ボランティアの力によって地元で長らく親しまれてきたご当地グルメをブランド化し、人を呼び込むという全く新たな地域活性化モデルを構築しました。

このモデルに触発されて全国各地にご当地グルメによるまちおこしの動きが広まり、2006年の第1回B-1 グランプリ開催につながりました。回を重ねるごとに出演団体と来場者が増え続け、B-1 グランプリは我が国最大規模のまちおこしイベントへと発展しました。

すべての原点は渡邊氏の発想と行動力でした。その渡邊氏を私たちは失いました。

しかしながら、私たちは失意の中で決意を新たにします。渡邊氏が生み出した地域活性化モデルは、人口減少が続く疲弊する地方が活力を取り戻す手法として輝きを失うことはありません。愛Bリーグに結集する全国60余のまちおこし団体は、渡邊氏の遺志を継ぎ「地方を元気に、地方から日本を元気に」という共通の命題に向かって歩みを速めます。

2019年11月23、24の両日、兵庫県明石市で第11回「ご当地グルメでまちおこしの祭典！ B-1 グランプリ」が開催されます。会場にお運びいただき、私たちの決意と熱意をご覧ください。

2018年12月21日

愛Bリーグ加盟団体一同